

②進学指導連携事業の実施

- ・効果的な入試対策とモチベーション向上を目的に、他校の生徒と合同で受験勉強に取り組ませるなどの事業を実施

③総合教育センターにおける専門研修の実施

- ・現状の大学入試問題の分析と大学入学者選抜改革による出題の傾向予想、及びそれに対する効果的な学習・指導方法の在り方を研究・開発する講座を開設

(3) 県負担・補助率の考え方

難関大合格者減少への対策は、一部高校のみでの問題ではなく県全体としての課題である。一部学校のみで努力して解決できる内容ではなく、県内高校が連携して解決に向かう内容である。また県立高校教員は県職員であり、県が教員の指導力向上のために費用を負担して研修等を設定するのは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	110	講師謝金
旅費	380	講師費用弁償、業務旅費
需用費	100	教材作成経費等
保険料	20	傷害保険料
委託料	4,550	進学指導講座等委託等
使用料	50	会場借上料
負担金	550	研修受講料
合計	5,760	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン（R1～5）
 - ・基本方針1 岐阜への愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成
 - 目標6 未来を創り出す人材を育成する学校づくりと地域との連携の推進

(2) 国・他県の状況

- ・中央教育審議会においてもグローバル化への対応等、今後の高校の在り方や高大接続改革に関する議論が進められており、他県においても高校の活性化や整備計画が進められている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 難関大学入試にも対応できるよう県立高校の進路指導力・教科指導力を向上させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

大学入試はその結果が出るまでに最低3年を要する上、生徒数や個々の進路希望の状況、予定される大学入試制度の変更等、複雑な要因が絡んでおり指標を設定することはできない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>重点校では、予備校講師による特別講義や職員対象の研修を実施した。また、難関大学進学希望者向け入試研究会や、教員向けに難関大学入試問題研修講座を行った。</p> <p>成果としては、90%以上の生徒が内容について「よかった」「まあよかった」と回答し、受験に向けてのモチベーションを高める良い機会となった。参加した教員からも「大変よい刺激になった」「今後も事業を継続してほしい」などの声があった。</p>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	社会のグローバル化に対応すると同時に、地域社会や保護者のニーズに応える県立高等学校改革が必要であるため。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	重点校それぞれの取組みにより、生徒の学習意欲の高揚や、教職員の指導力向上に寄与している。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	実施計画に基づき、計画的、効率的に事業を進めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 学校ごとの実情に合わせて事業を実施し、適切な指導・助言と評価を行い、翌年度以降の指定校の検討など取組みを改善していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 各学校における取組みを引き続き支援し、事業を進めるとともに、他校への成果の普及を目指す。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
--	--

県単独補助金事業評価調書

記入しない項目欄は斜線を引いてください。

- | |
|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/> 継続要求事業 |

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者（団体）	（理由）
補助事業の概要	（目的） （内容）
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） （理由）
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 （理由）

(事業目標)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

	H30 年度	R 元年度	R2 年度
補助金交付実績	千円	千円	千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満) 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
